

2011 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	教授
氏名	和田 光平		
NAME			

1. 研究課題

（和文）人口統計学によるマーケティング手法の開発と日米豪における実践的国際比較研究

（英文）The Development of Demographical Marketing Method and the International Comparative Research

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

わが国をはじめ先進国の多くで、また一部の新興国において生じている急速な少子高齢化ならびに人口減少がさまざまな商品やサービスの市場に及ぼす影響は大きいという経済社会的背景のもとに、本研究においては、特に世帯主の年齢別世帯数規模や世帯内の構造変化の推計をもとにさまざまな市場規模を確率的に予測する手法を研究するとともに、それをを用いて、実際にいくつかの市場予測を実施することを研究の目的とした。

その結果、年齢構造の変化に依存しやすく、老年人口層や年少人口層に依存しやすい市場も個別に確認できた一方で、年齢構造に依存しにくい安定的な市場も存在することが計量的に確認することができた。さらに金融市場における各種金融商品のマーケティングに応用可能な形の市場推計を実施し、現在、退職時期を迎える団塊の世代の個人金融資産の分布状況を推計した。

また、今回、人口推計ならびにその仮説条件として必要な出生率推計にあたり、従来型的手法である決定論的なコーホート要因法と対比的に、ベイズによる確率論的手法を用いることにより、推計精度の比較なども実施した。

（英文）

This research is aimed at the development of demographical method for the projection of various market sizes. It was found that there are three types of the relation between household ages and market trends, namely younger oriented type, older oriented type, and age independent type. Furthermore I made a comparative review of the traditional projection method and the probabilistic Bayesian one for the fertility and the total population.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>「灰色理論による外国人の国際人口移動の将来予測」 『経済学論纂』第53巻5・6合併号、2012年3月。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p>「ポスト人口転換期の日本における経済システムの変容」 人口学研究会、第559回例会、2013年11月予定</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p> <p>「確率論的人口推計」 『少子高齢化・人口減少社会の労働市場分析』 中央大学経済研究所叢書、2013年12月予定。</p> <p>「経済システムの変容」 『ポスト人口転換期の日本』 原書房、2014年予定</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>